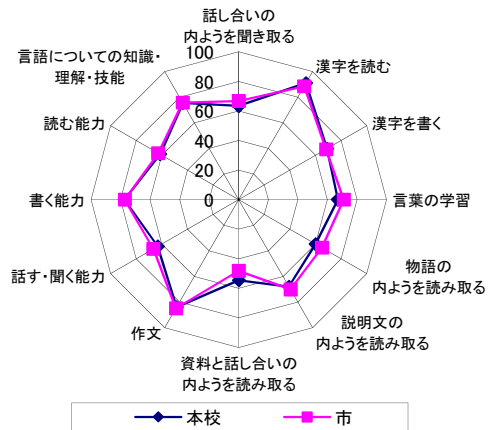


# 宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	63.3	66.6
	漢字を読む	91.0	88.4
	漢字を書く	69.0	68.2
	言葉の学習	67.0	71.0
	物語の内ようを読み取る	60.0	64.9
	説明文の内ようを読み取る	68.0	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	54.5	48.3
	作文	84.0	84.9
観点別	話す・聞く能力	63.3	66.6
	書く能力	77.3	77.1
	読む能力	61.4	63.0
	言語についての知識・理解・技能	75.6	75.8



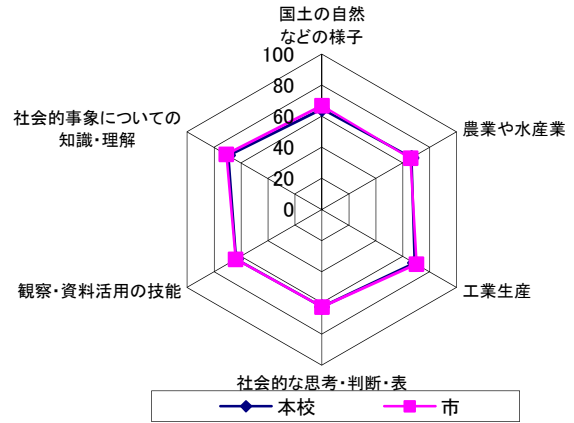
## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・市の平均正答率を下回っている。特に、話し方の工夫を聞き取ったり、司会者の役割を理解して適切な言葉づかいで話したりする問題の正答率が低い。	・学習活動全体において、聞く態度の更なる育成を図り、話の内容や要点に注意しながら聞き取る力を高めていく。また、役割を交換しながら話し合いを行うことにより、それぞれの立場での工夫を身に付けさせる。
漢字	・市の平均正答率を上回っている。特に、5年の漢字の読みについては100%の正答率を示しており、4年の漢字の読みについても80%以上の正答率を示すなど、十分定着していると言える。しかし、4年の漢字の書きについては、市の平均より上回ってはいるものの、正答率が約70%とやや低い。	・一層の力の伸長を図るため、授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させる。また、前学年の配当漢字も計画的に練習させたり、これまでに習った漢字を使わせて文章を書かせたりすることで、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。
言葉の学習	・市の平均正答率を下回っている。句読点の打ち方やことわざの使い方については、80%以上の正答率を示しており、おおむね理解していると言える。しかし、同音異字の使い分けや漢字の成り立ちなどについての問題では、正答率が低い。	・新出漢字の学習をする際に、漢字のもつ意味を伝え、意味を理解した上で漢字練習をさせ、文脈に沿った適切な漢字を使えるようにする。また、漢字の成り立ちについては、新出漢字の学習をする際に一緒に仲間分けを行うなど、意識的に復習する時間を確保し、定着を図る。
物語の内ようを読み取る	・市の平均正答率を下回っている。特に、場面の情景を読み取る問題や場面の描写をとらえて表現の特徴をつかむ問題では、正答率が低く、読み取る力が不十分である。	・登場人物の気持ちを読み取る際には、必ずその根拠となる行動や言葉などの叙述を明らかにさせたり、情景描写などからも考えさせたりする。また、同じ作者の本や、同じ分類の内容の本を紹介し、日頃より多くの物語に親しませる。
説明文の内ようを読み取る	・市の平均正答率を下回っている。特に、文章の内容を的確に読み取る問題での正答率が、市の平均より低い。また、文章の構成をとらえながら、内容を的確に読み取る問題では、市よりもやや上回ってはいるものの、十分に定着しているとは言えない。	・説明的文章の学習の中で、指示語に着目させたり、小見出しや段落構成図を活用したりすることで、段落同士のつながりをとらえ、内容を正しく理解する力を育てる。
資料と話し合いの内ようを読み取る	・市の平均正答率を上回っているが、正答率は50%台と低い。与えられた資料を読み取り、求められている情報を的確に取り出す力をさらに高めていく必要がある。	・二つの文章を比べて読む際に、比べる観点を与えて共通点や相違点をとらえさせるようにし、それを言葉で表現する活動を多く取り入れる。また、自分の考えと友達のことを比べて、友達同士の考えを比べていくといった活動を意識して行わせる。
作文	・市の平均正答率をやや下回っている。自分の意見とその理由を区別して書くことに関しては、正答率が90%以上あり、定着していると言える。しかし、指定された長さや段落構成で文章を書くについては、74%の正答率で、十分に定着しているとは言えない。	・文章を書くときの基本的なきまりを確認し、長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、自分の意見やその理由を区別して書いたりすることを繰り返し、書く力のさらなる定着を図る。

# 宇都宮市立岡本小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	64.6	66.7
	農業や水産業	66.4	65.8
	工業生産	68.8	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.6	62.7
	観察・資料活用 of 技能	63.7	64.1
	社会的な事象についての知識・理解	69.5	70.9



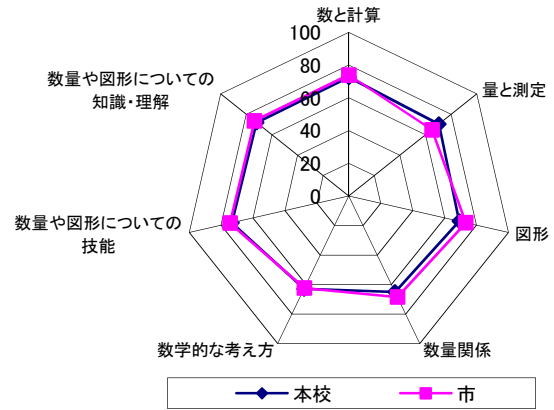
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市よりやや下回っている。世界地図から赤道を選ぶ問題や、日本の主な地形や、土地に合わせた人々の工夫についての知識理解が低く、市の平均より大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土の地形や気候に対する関心を高め、地形条件や気象条件に適応しながら生活をしている人々の工夫について、関連付けながら学習が進められるよう工夫する。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市よりやや上回っている。遠洋漁業が減ってきた理由や、栽培漁業の内容について資料をもとに把握する問題では、市の平均正答率より上回った。反面、沿岸漁業について、生産量の変化を示したグラフから指摘する問題では、正答率が30%と市の平均正答率を大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で食糧生産への関心を高めたり、農業・水産業に関する重要事項を復習したりし、定着度を高める。また、資料を読み取る技能や、読み取った事柄の原因や理由を考察する力を付けられるよう工夫する。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市よりやや下回っている。自動車をつくる工業については、おおむね理解しているといえるが、ハイブリッドカーの長所について、資料を読み取り内容を把握する問題では低い正答率となっている。それに対し、日本の貿易についての理解は低く、複数の資料をもとに、日本の貿易についての学習問題をつくることでは、22%と低い正答率だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読み取る学習を充実させる。読み取った事柄の原因や理由を考えさせたり、複数の資料から関連を考えさせたりする学習を取り入れ、多面的なものの見方や考え方ができるよう支援する。</li> </ul>

# 宇都宮市立岡本小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	72.5	73.9
	量と測定	70.4	65.0
	図形	69.1	73.2
	数量関係	65.0	68.5
観点別	数学的な考え方	62.9	62.4
	数量や図形についての技能	73.2	74.4
	数量や図形についての知識・理解	72.0	73.6



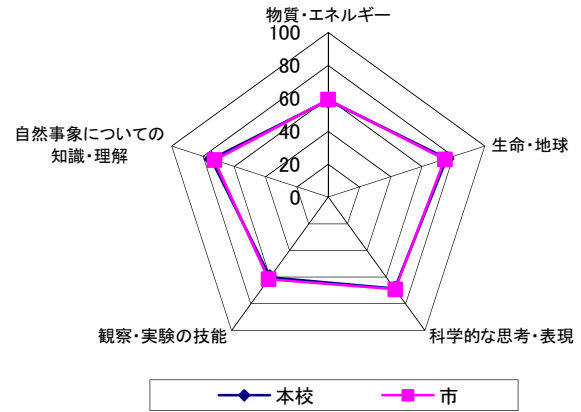
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より若干下回っている。小数・分数の大小や文章問題などに課題が見られた。また、小数のかけ算わり算でもつまずきが見られ、正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整数・小数・分数のしくみを復習するとともに、小数の乗法、除法の計算の仕方について復習する。朝の学習や家庭学習において繰り返し取り組むことで定着を図っていく。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より上回っている。特に立方体の体積を求める問題は、正答率が90%となっており、十分定着しているといえる。平均を求める問題では正答率が58%と市の平均を大きく下回った。これは計算が不十分なためであると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均を求める問題については、平均の意味を再確認するとともに求め方について復習する。また、単位量あたりの大きさを求める問題については、問題場面を</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より下回っている。直方体の展開図から、ある辺と垂直な面を求める問題では、正答率が42%と市の平均を大きく下回った。立体図形についての理解が不十分といえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形をいろいろな観点から分類するような活動を取り入れたり、図形の性質を使って正確に作図したりすることなどを通して、図形の理解をより確かなものにしていく。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より若干下回っている。伴って変わる2つの数量を式に表すこと、計算のきまりを小数へ拡張することについての理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴って変わる2つの数量の関係を□や○を使って式に表す問題については、図や表などを用いて具体的に考えさせることを通して理解させるようにしたい。計算のきまりについては、図を用いて交換法則や分配法則、結合法則などを正しく理解させ、活用できるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	58.8	59.3
	生命・地球	75.7	74.4
観点別	科学的な思考・表現	68.7	69.2
	観察・実験の技能	60.2	61.6
	自然事象についての知識・理解	74.6	72.7



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・平均正答率は市をやや下回っている。金属を温めたときの熱の伝わり方については正答率が85%を超えており、おおむね定着していると言える。しかし、水のあたたまり方や温度による空気の昇降、水蒸気や湯気などの水の姿の変化などについての理解が不十分である。</p>	<p>・ほとんどが前学年の学習内容であるので、それぞれ内容の重要事項を復習し、練習問題を解かせることによって定着を図る。また、身近に見られる温度によるものの変化の様子を具体例などを意識的に授業で取り上げ、さらに関心を高めながら、定着を図る。</p>
生命・地球	<p>・平均正答率は市を上回っている。雲と天気の変化や植物の花のつくりと受粉、魚のたんじょうなどについては、市の正答率を超えるものが多く、正答率も高い。しかし、植物の発芽と成長については、市の平均よりもやや高い値を示しているが、十分に定着しているとは言えない。</p>	<p>・定着度の低い内容については、重要事項を復習し、練習問題を解かせることによって定着を図る。また、植物の発芽と成長については、実験の方法を確認するだけではなく、何を導き出すための実験なのか、比較実験するのにそろえる条件や変える条件は何かをプリントなどを活用し、理解させていく。</p>